KOUMINKANPOU KOHIGASHI
公民館報 こひがし

第50号
令和6年12月21日 発行

湖東地区
世帯数 1,213戸
人　口 2,847人
令和6年10月1日現在

発行：湖東地区分館長主事連絡会
編集：湖東地区広報部長会
印刷：デザインケイズ

あの笑顔が戻ってきた。5年ぶりに湖東地区卓球大会開催。

生きる僕ら

山口分館　安達　輝

今年も稲刈りをなんとか無事終えることができた。四年前にここ山口区に越してきて、こちらの暮らしもまだわからぬままだった私に、友人が好意でかぼちゃ畑だった所を一区画借してくれたのが始まり。畔（あぜ）づくりから始まり、籾（もみ）の選別から手刈りまでほぼ全てを機械に頼らず行ってきたことは小さな誇りとなっている。

私が特に稲作で注意しているのは土の状態で、メタンガスの匂いが強くなってきた頃合いで裸足で田んぼの中を歩くということをしていた。「稲は人の足音を聞いて育つ」という格言を勘違いして始めたのだが、歩き終わった後直ぐ稲のリフレッシュした表情を見せてくれるのが嬉しく、続けている。歩き方が相撲の四股みたいになるので、自然と自分の足腰も鍛えられるのもいいと思う。

また、日に日に水生生物の数が増えていくのを観察できるのも楽しみの一つだった。ゲンゴロウやウマビルなど、現在では数を減らしていると言われる生き物も顔を見せてくれて、この子達のためにも環境を守ってやらねばとの思いも生まれた。きっとこうして自然と関わりながら日本人は情緒を育ててきたのだなと思う。

一年目の新米を噛み締めた時、主食を自分の手で作り出せると分かったことで、生きていく上での肩の荷が一つ降りた心持ちがしたのを思い出す。まるで蓼科を舞台に稲作を通じて現代っ子の主人公が人間的再生をしていく話、原田マハさんの「生きる僕ら」みたいだったなと思う。これからも、文字通り「泥臭く生きる」ことに喜びを見出していきたい。

こひがし探訪　笹原

笹原に残る八つの「祝神（いわいじん）」

笹原分館　武安　茂美

江戸時代の始めの頃、笹原周辺は、高島藩主が諏訪大社・御頭祭（おんとうさい）へ奉納する鹿狩りをした御留野（おとめの）でした。この御留野が解放され、南大塩に住む高島藩に仕えた小平佐五ヱ門が、この家に出入していた佐久の赤羽根半四郎を筆頭に、山梨の中島・清水・関・壁書、伊那の吉江・堀内・宮坂、茅野の両角・久保田などの十一人の侍に声を掛け、正保2年（1645年）に荒野だった笹原の見立（みたて）新田開発が始まりました。

荒野の開発は大変厳しく、その心を支えたのが信仰の力でした。新田開発の守り神「山の神社」、村の産土社「鹿狩社」、各姓の守護神「祝神」、火除の神「火の番地蔵」、馬の守神「馬頭観音」など多くの社（やしろ）と祠（ほこら）が建立されました。

中でも珍しいのが、各姓の守護神として、屋敷（開墾地）の隅に建立した「祝神」であり、現在も八つの祝神が祀られています。

その祭神は、各姓の出身地からお連れしており、赤羽根氏は正一位稲荷大明神、関氏は八幡大神、中島氏は天白神、堀内氏は御社宮司大明神、両角氏・吉江氏・宮坂氏・清水氏は稲荷神を祀っています。

その大きな鳥居と古い祠が、信仰心の厚さと歴史の顕われとなっており、今も八姓の家が笹原の歴史と暮しを守り続けています。

正一位 稲荷社
赤羽根氏

八幡社
関氏

御社宮司社
堀内氏

天白社
中島氏

稲荷社
両角氏

稲荷社
吉江氏

稲荷社
宮坂氏

稲荷社
清水氏

2024年の公民館活動を振り返って

湖東地区公民館分館長主事連絡会　会長　高砂　樹史

今年初めころに、同職を拝命し、各分館の館長や主事、事務局の皆さんに助けられて3つの大きな行事を無事終えることができました。

3月の卓球大会では、ちょうどコロナ感染症やインフルエンザなどが流行していたこともあり、開催そのものが危ぶまれましたが、感染症対策を主催者と参加者の皆さんですすめ、無事開催することができました。

7月の野球大会でも、参加した皆さんの協力と当日の曇天という天候にも恵まれ、無事開催することができました。しかし、参加チームの少なさや7月末という異常な猛暑日が予想される開催時期について課題が残りました。今後、競技種および開催時期については住民の皆さんの意見もくみ上げ、相談していくことが必要ではないでしょうか？

11月の公民館祭りでは、主催者側、参加者側ともに昨年より多くの住民参加をいただけました。しかも、子どもからお年寄りまで参加者の中に見受けられたことが何よりよかったのではないかと思います。

個人的には、生後一か月の赤ちゃんがお母さんに抱かれながら、三友会のみなさんの演奏をスヤスヤと眠りながら聞いている姿が今回の公民館祭りを象徴しているようで感激いたしました。

小学生発案と実施によるアクティビティー参加などの新しい取り組みと、従来から積み重ねてきた伝統的な主催行事やアクティビティー、出店などのより積極的な参加が、昨年より多くの住民参加をもたらしたのではないでしょうか？

最後になりましたが、こうした行事含め様々な事業を無事に実施できましたこと、関係していただいた全ての関係者の皆様への御礼を申し上げて最後のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

園児口頭詩

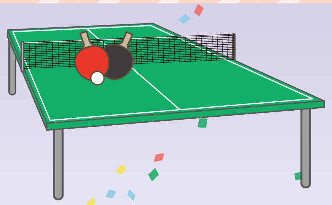
湖東保育園

①遠足のお弁当の中身の話を数人でしていた時のこと。
「Yちゃんね、せーそーじが好きだから、お弁当にいれてもらうんだ♪」
清掃(せいそう)?! いやソーセージのことでした(年少)

②テラスで空を見つめている時。
R「みて～、ひこうきが飛んでるよ」
T「ほんとだ」
A「たいへん！おつきさまにぶつかりそう！」
R・T・保「えっ!?あっほんとだ!!」
皆で白い月に向かっていく飛行機を見つめて…R・T・A「ぶつかる～!!」
白い月の前を飛行機は無事に通過して… 全員「…よかったね～」(年長)

③連休明け、お出かけしたことを話してくれる子ども達。
F「みんなですいぞくかんにいったんだよ」「いるかさんとかおさかなさんいたの！」
Y「こぶだいみた！」
保「ほかには何がいたの？」
F「ぞうさんいた！」母に会話の内容を伝えると、
「いつのまにか動物園にも行ったことになっているのか(笑)」と言っていました。
楽しい思い出から楽しい会話になりました。

球技大会の結果



卓球大会

団体男子	優勝：花蒔B	準優勝：山口	3位：中村
団体女子	優勝：中村	準優勝：金山D	3位：花蒔
個人男子	優勝：河西耕平(中村)	準優勝：五味正喜(新井)	3位：保科竜真(金山)
個人女子	優勝：平林春香(中村)	準優勝：牛尼萌那(中村)	3位：平澤ひとみ(花蒔)

野球大会

優勝：須栗平　準優勝：山口　3位：中村

今ここに在る。

Yamaguchi
山口分館　木村　秀和

山に登ってきた。

十月の三連休、バスとロープウェイを乗り継ぎ、三千メートル級の頂に近づける気軽な山。

ただ、バスもロープウェイも数時間待ちである。

けれどもその時間をかけた後に踏み入れることのできる景色は、絶景の連続であった。

長野県は、県境を山と川に守られた「ワンダーランド」。

日常生活でほんの少しだけ目線を上げたり細部に移したりすると、「こんな所にこんな事が！」と言える世界なのである。

この湖東も、生活する何処もが「インスタ映え」する、誰もが気付ける「テーマパーク」。自分達がどんなに素晴らしい世界に生きているのか、ここで生活する皆さんは知っている。

ならばこれを、富士山や北海道、京都と比する資源にするために努力をし、将来を作る子供達と共に楽しみ、活動していく。それが湖東の未来を作っていく。だから湖東を楽しもう。地域を知ろう。

なんて偉そうな事を書きましたが、公民館活動を行っている中では「この地域で生きていくって大丈夫？」「この地区はいつまで保つの？」と考えさせられる。

地域を元気にする事の一助として、公民館活動は楽しかった。

移住者が増え、元気が戻る笹原

Sasahara
笹原分館　武安　茂美

江戸初期に十一人の侍が拓いた笹原は、大正初期には人口六百十名と発展しましたが、昭和三十年代から人口流出が始まり、現在は二百三十名まで人口が減り、少子高齢化・空家増加などの多くの課題を抱えています。

その笹原は、教育による人作りと信仰による結束の力で発展し、人口が増えていきました。

江戸中期の「寺子屋」、明治六年の「笹原学校」、昭和二十九年の「笹原保育所」、令和三年の民営「野あそび保育ささはら」などにより、多くの人財が育ちました。

その結果、自前の農業用水「北ノ沢堰（せき）」の開削、冷害を克服する為の加温ため池「御射鹿池」「笹原ため池」の建設、「圃場整備事業」、農業法人「ささはら営農」の設立などにより、農業が大きく発展しました。

また、明治に入り多くの起業家が生まれ、製糸・寒天・凍み豆腐・土木などの産業設立などにより、豊かな集落へと発展しました。

そして、多くの古民家や蔵が建ち、蔵には二十一の鏝絵(こてえ)が飾られ、堰の水音の響く、農村の原風景を残す山里の姿が生まれました。

ここでの暮しに憧れ、平成二十年頃より移住が増え始め、当初は定年後の移住が主でしたが、近年は若い世代の移住も増えています。

古民家八戸・新築二戸・ログハウス二戸・借家一戸の計十三戸の新住民の力も借り、活性化の取組も考えていければと思います。

なお、信仰については、本号の「こひがし探訪」の頁をご覧下さい。

大正3年　改築工事
湖東小学校・笹原分教場

昭和29年
茅野町湖東・笹原保育所

令和3年
野あそび保育ささはら

大屋根の古民家

二階建の古民家

ログハウス

Hanamaki

活動を振り返りて

花蒔分館　清水　正敏

日頃は公民館活動にご協力頂き厚く御礼申し上げます。

私共の花蒔分館も他地区の方々と変わらずコロナの影響を受け活動を大幅に制限されてまいりました。各行事は軒並み中止となり、会員同士の交流の機会は減少し、どんど焼き新年会等も中止となる有り様で迎える中、公民館の役を引き受ける事となり少しでもコロナ以前の活動状況に戻れればと新年を迎えた事を思い出します。

幸いにも新年会も無事に執り行われ、会員の方々及びご家族の笑顔が見る事が出来、役員一同安堵した事を思い出します。

又、湖東地区の卓球大会に於いては参加者が中々揃わない中でも熱心に練習から参加し若手と交流するなど活動に協力して頂いた結果、男子団体は優勝、女子団体も三位入賞、更には男女共個人戦にも入賞を果たすと云う結果を残す事ができました。勿論その日の夜は大いに盛り上がったのは云うまでもありませんでした。

また今回のように会員の方の喜ぶ顔が見れる様に今後も頑張って行くつもりです。

Kaneyama

金山分館の取り組み

金山分館　高砂　樹史

金山分館では、小さな集落なので、できるだけ皆さんの参加を！と考えていろんな行事をすすめてきました。

1月、どんど焼き

3月、湖東卓球大会に、男子団体、女子団体、個人戦に参加

3月、9月にはお彼岸祭り

7月、公民館の花壇の花植えです。

9月、お餅つきとみんなでお食事囲んでお祭り

Suguridaira

おのこ夏祭り

須栗平分館　牛山　孝弘

コロナも明け、今年は卓球大会や野球大会には大勢の区民の皆様に参加して頂きました。野球大会では、湖東地区で優勝し、茅野市の大会に参加を致しました。又、区内では、おのこ夏祭りが開催されました。

村の子供達や高齢者の皆さん約二百人が豚汁の香りが漂う会場で祭りを楽しんでいました。屋台では焼きそばや綿飴やポップコーン、ピザ等が振る舞われ参加者はそれぞれの好みに合わせて楽しんでいました。

終盤には約十五分間花火が打ち上げられ近距離でその迫力を感じられました。

コロナが明け皆が健康に過ごせる事への感謝の気持ちが溢れているようでした。

この夏祭りは、地域の活性化、及び地域貢献の一環として開催されています。特に高齢者の皆様の笑顔が印象的で友人との再会など楽しい時間を共有することで絆が一層深まったと感じられました。

夏祭りを通じて地域の魅力を再発見し皆で力を合わせ、様々なイベント活動で、須栗平という地域をさらに魅力的な場所にすることで、明るい未来への活力源となることを願う一日となりました。

園児口頭詩

野あそび保育さきはら

草木染めをするために、畑からマリーゴールドを摘んでビニール袋に入れて朝の会で子どもたちに見せようと持ってきました。

ビニール袋に入れられたマリーゴールドの花を見た一人の子どもが
「そんなところに入れたらお花が苦しいじゃない」

風の強い日に、落ち葉が舞い上がっている光景を見て
「神様がいるみたい」

岳麓公園はみんな大好きなお散歩コースです

帰りの会の様子

お散歩先で大きな蕗を見つけたよ

今年も笹原地区のほおずき作りに参加しました。地域の方がジャム作りを教えてくださいました。

畑を耕して「今年はどんな野菜を作ろうかな？」とわくわくです

園庭のいが栗を拾って染物をしました

雨の日はカッパを着て探検♬

Nakamura

大星神社祭

中村分館　杉山　優太

今年は様々な行事が開催され、多くの取材に行かせて頂きました、コロナで中止になっていた行事も以前のように開催することが出来ました。

今年も中村地区では6月に大星神社祭が開催され、役員として私自身2年連続での参加になりましたが文化教養部を中心に無事開催出来することが来ました。

お祭り当日は大変なこともありましたが大勢の区民の皆様や子供達が参加してくださりとても盛り上がりました、今年はビールサーバーを用意し子供達だけではなく大人も楽しめるように工夫をしていました。

子供達は輪投げやコイン落とし、スーパーボールすくいで行列を作りながら笑顔で楽しんでくれ、盆踊りには多くの子供達が参加をし、練習の成果を見せてくれました。

Arai

一年間を振り返って

新井分館　五味　長秋

広報部としては、どんど焼きから始まり卓球大会、野球大会や婦人部によるサンキャッチャー作り、マレットゴルフ大会等多くの行事に参加することで区民の皆さんと多く触れ合うことが出来とても満足した1年でありました。

来年もいろいろな行事が行われ区民の皆様が参加され多くの笑顔が見れることを期待したいと思います。

今年は主事という立場で一年間公民館活動に携わせていただきました。

新井区として5年ぶりの区民バス遠足を開催しました。

最初はコロナ明けでしたのでどのくらいの方が参加されるかが心配でしたが子供からお年寄りまで70名程の皆様に参加頂き区民の交流を深められたと思います。

沼津港では、おいしい海の幸と干物、イチゴプラザではイチゴ大福やクレープなど満喫することが出来ました！

区民の皆様にも喜んで頂き楽しい日帰り旅行になりました。

来年は館長という立場になりますが今年の反省を生かして公民館活動全般に対し頑張りたいと思います。

Kamisuge sawa

公民館活動を振り返って

上菅沢分館　坂本　慎悟

今年もあと僅かとなりましたが、上菅沢分館では本年も様々な行事が執り行われました。

5月には学習部主催の『クラフトテープで作るイチゴストラップ作り』が行われ、初めての方には中々難易度の高い作品でしたが、講師の方の指導の下で皆さん試行錯誤しながら作品を作り上げる事が出来ました。

6月には体育部によるマレットゴルフ大会が花巻公園マレットゴルフ場で開催され、楽しみながら体を動かす事で気持ちもリフレッシュ出来てとても良い1日となりました。

7月は区民全体での村祭りが開催され、午前は出店や太鼓の演奏などがあり、午後は焼肉大会や広報部主催によるくじ引き大会が行われ区民の皆さんが楽しく盛り上がりました。

11月には藁束投げ大会・老いない身体作り講習会も予定されており、上菅沢分館では1年を通じて様々イベントが行われ楽しむ事が出来ました。

最後になりますが、ご協力頂いた区民の皆様、役員の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

Hori

湖東地区卓球大会の熱い戦いと絆

堀分館　小平　秀明

3月3日、湖東地区卓球大会が北部中学校で開催されました。コロナ明けの久しぶりの大会ということで、選手たちの熱気が会場を包み込みました。朝の寒さをものともせず、選手たちは緊張感と期待感を抱きながら、各自の準備に余念がありませんでした。

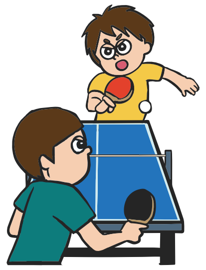
会場には各地区の懐かしい顔ぶれも多く、長い間会えなかった仲間たちが再会し、思い出話に花を咲かせていました。若い選手や親子で参加する姿も見られ、新たなエネルギーが会場を盛り上げ、世代を超えた交流が生まれていました。

団体戦では、得失点差によって3位決定戦に進出しましたが、惜しくも敗れてしまいました。選手たちは全力で戦い、チーム一丸となって挑みましたが、結果には悔しさが残りました。それでも、敗北を糧に個人戦への勝利に意欲を見せる姿が印象的でした。

トーナメント形式の個人戦へと進む中で、選手たちは様々な強敵に立ち向かいましたが、団体戦の疲れが影響し、結果を残すことが難しかった選手達。しかし、観客からの温かい声援が心の支えとなり、彼らを励ましました。

たとえ結果が振るわなくても、応援の力を感じながら試合を楽しんでいました。

公民館役員の協力により、素晴らしい卓球大会となりました。



今後もこの地区行事が盛大に行われ、さらなる絆と卓球の楽しさを分かち合う場として、末長く開催されればと願っています。選手、観戦者、役員の皆様お疲れ様でした。